

# 山口拳矢はトップスピードまでの速さを武器に暮れのグランプリを射程圏に入れた



昨年デビューした、スピード競輪の申し子みたいな117期生。

寛仁親王牌には山口拳矢（岐阜）、

石原颯（香川）、菊池岳仁（長野）

の3人が参戦する。

地元のGII・共同通信社杯を獲った山口拳矢。決勝の前に何度もシミュレーションしたが、新田祐大の2段駆けを、さらにまくつてしまふイメージは1回も描けなかつたと言う。他人の動きを当てにした部分はあつたが、単騎のレースを、2コーナーからのまくりで仕留めた。

3代続く競輪一家。覚えてないくらい小さいときに競輪と出合つてはいるが、選手になろうと思つたのは大学3年のとき。将来やりたいこともなく、サラリーマンもイメージできない。「どうしても選手になりたいとかはなかつたです。ほかの人に比べたら、意識は低かっただと思います」。寝ること、ファッショニ、お菓子（味が濃いのが好み）、麺類、牛肉の赤身が

好きな彼。デビューして1年3カ月でGIIの覇者になった。

諸橋愛がこんな話をしてくれた。8月のオールスターの最終日。

山口が単騎の競走で、外併走からまくつて勝つたレースがあつた。諸橋が1コーナーと2コーナーで山口を外へ持つていつたのに、いざれもしのいだ。「いなすから、しつかり当たれない。デビューし

て1年少しの選手なのに、すごいセンスですよ」と感心していた。

ラインで決めるレースが少ないという声を聞くが、「後ろのためとか、ラインで決められる余裕がないからです。本当に自分が勝つので精一杯」。すごい負けず嫌いと自らを評する。「でも構えすぎところがあるんで、力でいけるところはいかないとダメですね」。

▽弥彦競輪 寛仁親王牌

世界選手権記念トーナメント  
それいけ117期 第1話  
【新潟スポーツ 信氏 忠】

